

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272600972		
法人名	社会福祉法人 八千代美香会		
事業所名	グループホーム美乃里		
所在地	千葉県八千代市村上573-5		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成25年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

将来的な安心を約束できる介護ノウハウを蓄積している安定した社会福祉法人の運営する数少ないグループホームとして日々頑張っています。利用の敷居を低くする為、費用を低く抑えるとともに、通院は家族任せにし負担増大を招かないよう、基本的にスタッフで対応することで状態把握の一助としています。待機者が多数にのぼっていることから、当ホームの援助や環境が利用者や地域に認められていると実感しております。また、広い共有スペースを生かした援助を提供すると共に、併設しているデイサービスや地域に開放している多目的ホールなどを活用し、地域との交流を進めています。隣接する特別養護老人ホームとも密接に連携し、互いにレクや行事を企画・実施するなど、地域で最後まで楽しく穏やかに暮らせる環境を整えております。生きる力の源をどんどん増やすことが出来るような皆様の「家」になれるように頑張っていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居心地の良い「家」作りを理念として、何がその人にとって居心地がいいのかを、当ホームの職員は常に追求し続けている。一つのユニットでは年度初頭に職員同志話し合い、理念を実践して行くに当たり今年度の目標を「たおやかな」と設定した。優しさのなかに気品と柔軟性を備えたサービスが提供されているかを職員自らが振り返り、利用者が楽しく穏やかに暮らせる「家」となるようサービスの質の向上に努めている。利用者アンケートには、職員や事務員が穏やかで優しい、身内のように接してくれるといった評価が多く寄せられている。このような職員の手による目標設定や、事業所運営の参画に対する自主的な姿勢を高く評価したい。法人の基本方針の一つに、施設は地域住民の心の支えとなるような施設の運営を心がける事が掲げられている。管理者は施設のホールを地域自治会や催しの際に開放するなど地域との交流に努めている。保育園児から地域団体まで幅広い年齢層と利用者が接することが出来るように計らい、利用者が地域の一員となって暮らし続けられよう取り組んでいる点も評価に値する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して	「居心地の良い家を作ろう」を理念に、地域の中で楽しく暮らせる環境作りに努力しています。また、理念を掲示して各スタッフが理念を共有できるように配慮しています。	理念を共有し実践に繋げていく為に、職員が意見を出し合い年度計画として目標を定めている。毎月のユニット会議で、提供されたサービスが、居心地の良い「家」作りという理念や目標に沿ったものかを検討している。	目標は職員が参画して定めたものであり、イメージとして理解されている。次のステップに向けては、取り組むべき具体的な介護の重点事項を掲げ、目標が明確化されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会議会場は当ホームのホールを利用いただいています。地域支会(社協の地域組織)や地域民生委員との交流も進めています(老人会の慰問等も含む)また、外出行事や毎日の散歩を通じて、地域や近隣の住民との交流も図られています。	法人の基本方針に、地域住民の心の支えとなるような施設の運営を心がけると謳われ実践に繋がっている。施設のホールは自治会の会議や地域の集まりに開放され、災害時には地域の拠点として受け入れを検討している。近隣住民や保育園児、児童等幅広い年齢層と利用者が交流できるよう支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の保育園児・小学生との交流会や中学生の体験学習、また、地域団体の施設見学会が定期的実施されております。幅広い年齢層の地域の方とコミュニケーションを図っていくことで、認知症の理解などの一役を担っているのではないかと考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	徐々に充実した会議になってきています。前回評価内容も会議にて報告し、ご意見を伺いました。	運営推進会議は今年度4回実施されている。さらに2月にも開催が予定され、前向きな姿勢が窺える。地域包括センター長、地区民生委員代表、利用者代表が構成メンバーで、日常の活動報告や行事予定等が報告されている。	会議記録からは、活動報告が中心で意見や課題について話し合った記録は多くは窺えなかった。年6回開催の計画と、毎回課題点をテーマに設けるなど会議の目的を明確にし、意見が運営に反映される場となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の担当課へ出向き、待機者数の報告等を行っています。また、毎月、市の介護相談員がいらっしゃるので、その際に現況報告を行い、アドバイスをいただいています。	市の長寿支援課や生活支援課とは、事業所の現状報告や待機者の情報交換等で連携を密に保っている。地域包括支援センターの職員には運営推進会議への参加や職員の内部研修の講師を務めて頂くなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが正確に理解しているとはいえませんが虐待や拘束について注意を喚起し、身体拘束を行わないケアは実践しています。また、内部研修等を通じて全職員に知識を浸透できる環境をつくっていきたく思います。	理事長の強いリーダーシップのもと、身体拘束を行わないケアを実践している。新任に対しては、オリエンテーション時に身体拘束について研修を行い徹底を図っている。内部研修を通して身体拘束とは何かをよく理解させ、身体拘束ゼロの環境作りと知識の浸透を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義についても、各スタッフへ周知しています。(身体的な暴力だけが虐待ではない由)また管理者として話を聞き易い雰囲気心掛け、内部で隠蔽する事の無いよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、左記制度を必要とされている方はいらっしゃいません。制度についての細かい内容は研修等を通して理解を深める必要があると考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は法人本部等へ報告し、すばやい回答を心掛けています。また、第三者(国保連や市町村・第三者委員)への相談が出来ることも重要事項説明書に明記し説明しています。	クリスマスの食事会等イベントを年3回催し、利用者や家族の意見を聴き取る機会を設けている。ほぼ全員の家族の参加があり、管理者やユニットリーダーが意見・要望を汲み取り、ユニット会議で検討し運営に反映させている。利用者アンケート調査でも、個別の要望に対する的確な対応を評価する声が寄せられている。	利用者・家族の意見や要望がより広く運営に反映されるよう、運営推進会議に家族の参加を募る事や、家族会の定期的な開催が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているユニット会議や日々のコミュニケーションの中から意見や提案、要望を汲み取っていけるよう努めています。なるべくやりがいをもって仕事に取り組んでもらえるよう、環境と雰囲気作りに配慮しています。	職員の意見や提案は、リーダーが中心となり汲み取りを図っている。要望等はユニット会議で話し合われ、運営に反映される仕組みとなっている。日中話し合いが持ちにくい個々の課題については、夜勤時間帯に機会を設けるなど、話しやすい環境作りに配慮が見られる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や人事考課、それに伴う給与・賞与の支払いなどで向上心を保てるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップを図るべく、法人全体での研修や事業所内での研修を定期的に行っています。また、外部での研修にもなるべく参加できるよう配慮しています。国家資格取得時の登録費用助成や資格手当の支給、法人内での受験対策講座の実施など、資格取得への支援も行う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホーム等と交流の機会をつくり、情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には必ず見学にお越しいただき、ご本人と話しをする機会を設けています。不安を訴えられる場合も含めて傾聴し、前向きに入居いただけるような働きかけを意識しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前に必ず見学にお越しいただき、なぜ入居を検討されるのかを伺っています。質問にもお答えし、不安や悩みを出来るだけ表出頂けるよう働きかけています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービス以外の相談の電話も多く、希望されるサービスの事業所紹介や保険者への取次ぎなど、相談対応も行っていきます。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間が家族より長いことから、共に暮らす家族に近い関係を目指しています。家事や日々の業務も助け合いながら行っています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には様々な協力を依頼し、サービスを提供しているのが現状です。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会はもちろん、面会自体が自由になっています。	家族や友人の訪問が多く、馴染みの関係継続支援は良い環境にある。訪れた友人と車で連れ立ったり、ゆったりとした談話スペースでの談笑は利用者の楽しみとなっている。併設デイサービスと合同で行われる、ボランティアによるお話し会や利用者同士の交流で、馴染みの関係作りを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の雰囲気作りのためにも、入居者個々の関係性が充実したものになるよう、場合によっては職員が間に入って円滑にコミュニケーションが図れるように日々支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても依頼があれば、ご本人やご家族の相談等は可能な限り受け入れます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての要望に100%応えることはできませんが、出来る限り、本人の希望を叶えた生活を提供しています。日常のコミュニケーションの中から本人の希望や意向を汲み取り、職員間で共有・実践できる環境を心掛けています。	利用者の思いや希望は、日常会話中のささやかな事柄でも「意見」として捉え、出来る限り本人が満足できるよう早期対応している。意向の表現が困難な場合は、本人の興味ある事をレクリエーションに取り入れるなど汲み取り方を工夫し、把握に努めている。家族アンケートでも、本人の要望にすぐに応えてくれる職員や施設の姿勢を評価する声が多く寄せられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴をお聞きして、ホームでの暮らしの中で快適な日々が送れるよう意識しながら援助しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議、毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス以外にも、毎朝の申し送りを通して意見・情報交換を行い、日々変化する入居者の状態に柔軟的に対応できる体制を整えております。基本としてカンファレンスに家族の参加は要請しておりません。	毎朝の申し送りや担当者による毎月の状況報告で挙がってきた内容が、ケアプランのニーズや目標に沿っているかどうか、ケアカンファレンスで全職員が話し合いモニタリングしている。往診の医師や看護師にも相談して、助言内容をケアプランに反映させるように配慮している。	アンケート調査から、家族の要望の汲み取りに課題点が見出された。今後の取り組みとして、家族の面会訪問時にケアマネージャーが家族から要望を聴き、相談の上プランに組み入れることを改善策とした。家族のプランに対する理解を深めるいい機会となるので、取り組みに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。記録は四半期に一度、ご家族に送付し、現状把握の一助としてお使いいただけるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスはもちろん、隣接する特養やデイサービス・居宅支援・ショートステイなどと連絡を取り合い、さまざまな観点から支援できていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事等に参加し、交流を持てるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医との協働は非常にうまくいっています。他の医療機関受診も自由です。周辺に多様な病院があるため、かかりつけ病院にこだわらず、ある程度の希望に応じた医療が受けられるよう支援しています。	利用者のほとんどが協力医に受診しているが、かかりつけ医を希望する利用者には職員が支援している。協力病院の医師や訪問看護師とは協働体制にあり、利用者の変化に迅速に対応できる体制となっている。隣接施設の看護師が往診時同席し、受診・医療記録を作成している。受診回診ノートで職員間の情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携はうまくいっていると思います。訪問看護師はもちろん、隣接する特別養護老人ホームの看護師も当ホームの入居者の健康管理と医療活動の支援を行っています。主治医往診日も両看護師が同席しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLの低下予防の為に、なるべく早く退院できるように、MSWなどと連携しながら援助を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向が見え始めた時点で今後の方針について主治医や御家族と話し合いをする機会を作っています。法人の趣旨として、重度化した場合には隣接する特養等を利用いただき、地域の入居先を探しておられる認知症高齢者の皆様にグループホームを利用していただくよう配慮し運営しています。	入所契約時に、重度化した場合のホームの方針や対応策を説明し納得を得ている。重度化に際しては、早い段階から医師や利用者・家族を交えて、利用者にとって最適となる対策を検討し支援に繋げている。家族には法人の特養や他施設の利用も選択肢にあることを説明し、今後の不安解消と安心に努めている。	利用者の高齢化が進んできている。重度化や終末期におけるケアや職員の心がまえについては、普段から職員間で話し合いの機会を持つことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には管理者またはユニットリーダーの指示を仰ぐこととなっています。関係マニュアルは休憩室で常に閲覧できる状態にあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行い、隣接する特養と連携した防災活動の訓練を行っています。3日分の食料・水の備蓄も行いました。	年3回の避難訓練は、隣接の特別養護老人ホームと合同で行ない、内1回は消防署が指導している。「緊急伝達訓練」という法人独自の試みも行っている。図解・写真入りの「災害対応マニュアル」も職員が合同で作製しており、防災意識や防災に対する自主的な取り組みは高く評価できる。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねないよう、言葉使いや接遇には十分配慮しています。	職員は利用者を年長者として、常に敬いの念を持って接遇をするように留意している。家族アンケートにも職員に対して、感じ良さや優しさをもった日頃の取り組みが評価されている。入室時も利用者の「家」として尊重し、一線を画してプライバシーを損ねないように配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、本人の希望をかなえられるよう支援していますが、不可能な希望もあり、100%ではありません。天候にもよりますが、必ず散歩の機会は提供し、ホームの中だけで一日が終わることのない様に支援しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事の時間は設けていますが、「もう少し横になって休んでいたい」という方に対しては、無理強いせずに食事の時間をずらして対応するなどして、一人ひとりのペースに合わせたケアを心掛けています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現状の訪問美容室(月一回～二ヶ月一回実施)で満足されていらっしゃる方もいらっしゃいます。中には、近隣の美容室を利用されている方もいらっしゃいます。また、その日、着たい服などがあればその希望にあわせて支援しています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一回、職員で献立を作り、食材の買い出しを行う日をつくっています。入居者の好みや季節の食材を用いて食事の時間を楽しんでもらうように努めています。また、隣接する特別養護老人ホームから管理栄養士に来てもらい検食を行うことで、より充実した食生活になるよう配慮しています。	普段は栄養士が献立を考えて、法人契約の宅配食材を職員が調理している。週に1日は、3食を利用者の希望メニューに沿うことで、好物を食べる喜びの機会を多くすることを大切にしている。簡単な下ごしらえや食器の後片づけなども利用者は、日々行なっている。アンケートでも職員の料理が上手だと誉める評価があった。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考えておりバランスの取れたメニューになっています。糖尿病や肥満傾向の方については食事を調節し援助しています。水分は提供機会を多めに設定しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援しています。	2部屋に1箇所ずつ、ゆったりしたトイレが設置され、プライバシーが保てるようになっている。職員が利用者個々の排泄パターンを熟知して、トイレ誘導をしている。排便パターンについては、看護師と相談しながら、早期にコントロールして、利用者が便秘で体調を崩さないように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立チェック・検食と、意識的な水分提供を行っています。便秘傾向のある方には主治医の指示を仰ぎ対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日と時間は決めてありますが、毎日お風呂を沸かしており、希望があれば入浴することが出来ます。併設のデイサービスに機械浴も設置されており、下肢筋力の低下した方も安全に入浴できるようになっています。	採光が工夫された明るく広い浴室で、必ず職員が一对一の介助を行なっている。入浴拒否の利用者には、職員全員で声かけしたり、体重測定で誘導するなど、工夫や努力をして入浴を楽しめるようにしている。重度化した場合は、併設のデイサービスセンターで負担がない座位の機械浴の利用で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を見やすく整理し、主治医や精神科医に状態を報告することで適切な服薬が可能になるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や散歩、外出行事などの提供で気分転換や楽しみの提供を行っています。編み物や裁縫が得意だった方には御家族の協力も得ながら個別レクリエーションの一環として行っていただき、退屈なく過ごして頂ける支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できる限り、本人の希望をかなえられるよう支援していますが、不可能な希望もあり、100%ではありません。御家族に協力していただき遠方まで外出される方もいらっしゃいます。	施設全体が広く、利用者によっては、併設のデイサービスセンターへ遊びに行ったり、上階のテラスから見える梨園や早朝の富士山を見に行くのも運動を兼ねた外出と考え支援している。家族・知人の支援による買物・飲食外出も多く行なわれている。年に一度、日帰り旅行で遠方まで足を延ばし、利用者全員がリフレッシュする機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については基本的に自由としており、御家族の判断に従う形となっています。所持している方への支援は行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡を取りたいとの訴えがあった場合には自由にユニットにある共用の電話を使っていたいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かみのある雰囲気作りに配慮しています。室内に居ても四季を感じていただける装飾を心掛けています。また外出時の写真などを掲示し、ホームの様子を面会者の誰もがわかるよう工夫しています。	居間兼食堂は、吹き抜けの中庭に面していて、観葉植物の緑が多く、爽やかな印象である。ゆったりと気品のある空間は、ユニットの今年のテーマである「たおやかな」雰囲気に沿っている。談話スペースや季節ごとの花、利用者の写真の飾り付けなど、利用者が心とむだけでなく、面会者も訪問しやすい気配りが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になりたいという方はいらっしゃいません。そのような時は、皆さん自室に戻れることが多いようです。面会や気の合った仲間と過ごせるスペースは準備させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、火気の発生を伴う物品以外は自室への持ち込み制限は設けておらず、居心地良く過ごせる居室が出来上がっていると思います。	7畳の居室には、エアコン・洗面台が完備され、窓も広くて明るい。居室作りについて、職員は震災以降、持ち込みのダンスなどは、低めが安全だと助言している。家族からは実家に遊びに行く感じと好評で、利用者が自分らしく今までの生活や習慣を継続できている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを解り易くするための表示や、居室札の個別化などで工夫しています。		